

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675300182
法人名	有限会社 ケアサービス研究所
事業所名	グループホーム コスモス
訪問調査日	平成21年6月3日
評価確定日	平成21年6月24日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4675300182
法人名	有限会社 ケアサービス研究所
事業所名	グループホーム コスモス
所在地	始良郡始良町大山字小坂元69番 (電話) 0995-67-8280
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年6月3日

## 【情報提供票より】(平成21年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤	3人, 非常勤 12人, 常勤換算 7.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 866 円		

### (4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青雲病院 久永医院 徳重医院 橋村歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな田園風景の中、住宅地に溶け込むように建てられたホームである。毎日の挨拶に始まり、納涼祭などの開催や自治会活動を通して地域の皆さんと親しく交流し、防災面での協力のほか、地域の高齢者福祉の向上にも努めている。日々のケアにおいては、その人らしさを大切にし、安全面の配慮をした上で、利用者ができる事をやっていただいて、元気と自信を取り戻してもらうことを主眼としている。地区グループホーム連絡協議会の会長事業所として、地区全体のレベルアップに尽力するとともに、事例発表や相互見学研修により、さらなる資質の向上に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は無い。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義を職員が理解することを重視しており、毎日のミーティングの中で自己評価項目を読み上げ、職員全員で話し合いの上で管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、利用者およびご家族、校区社協会長、区長、老人会会長、民生委員、町福祉課職員などが出席している。ホームの活動や状況、行事の報告などを行い、質問があれば詳細を説明するとともに、それぞれの立場からの意見や要望を受け、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。地域住民からの相談に対して、出席者が一緒に考えてアドバイスをするなど、ホームに関する事項に限らず、地域全体の福祉に貢献する内容となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族とのコミュニケーションを重視しており、面会時には居室で管理者や職員が一緒にお茶を飲み話を聞くようにしている。家族会の際にも職員との懇談会を催し、ゆっくりと話す時間をつくり、ご家族から要望や意見を聞き出す機会を設けている。出された意見は連絡簿に記録して、職員全員で共有しながら話し合い、改善へ向けて取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	校区社協だよりに掲載したり、納涼祭の案内や招待状を配布するなど、ホームの役割を発信する取り組みを行っている。また、学校行事に参加したり、近隣農家の収穫の際に利用者と一緒に出かけるなどして、地元の人々との交流を図っている。老人会に出向き、認知症についての講演を実施するなど、地域社会への貢献も行っている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を理解した上で、わかりやすい言葉で、職員が自らのものとして取り組めるような理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングルームに理念を掲げており、職員はいつでも目にすることができ、理念に基づくケアが行えるように努めている。「自分が受けた介護・したい介護」を職員に書き出してもらい、日々のケアの中で理念を実現するための対応方法について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	校区社協だよりに掲載したり、納涼祭の案内や招待状を配布するなど、ホームの役割を発信する取り組みを行っている。また、学校行事に参加したり、近隣農家の収穫の際に利用者と一緒に出かけるなどして、地元の人々との交流を図っている。老人会に出向き、認知症についての講演を実施するなど、地域社会への貢献も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を職員が理解することを重視しており、毎日のミーティングの中で自己評価項目を読み上げ、職員全員で話し合いの上で管理者がまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者およびご家族、校区社協会長、区長、老人会会長、民生委員、町福祉課職員などが出席している。ホームの活動や状況、行事の報告などを行い、質問があれば詳細を説明するとともに、それぞれの立場からの意見や要望を受け、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。地域住民からの相談に対して、出席者が一緒に考えてアドバイスをするなど、ホームに関する事項に限らず、地域全体の福祉に貢献する内容となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から町担当課や地域包括支援センターの職員へ状況報告や相談を行っており、運営推進会議以外でもホームに立ち寄ってもらいながら、利用者の暮らしぶりを見てもらう機会を設けている。時には利用者の外出に同行してもらい、一緒に活動に参加してもらうこともある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「コスモス便り」には、行事案内や活動内容を写真入りで報告し、新人職員の紹介なども行っている。このほか、状態変化時や受診結果については電話で報告しており、内容については連絡簿に詳細に記録している。金銭管理に関しては、ご家族の承諾のもとで立替え、一ヶ月ごとに請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのコミュニケーションを重視しており、面会時には居室で管理者や職員が一緒にお茶を飲み話を聞くようにしている。家族会の際にも職員との懇談会を催し、ゆっくりと話す時間をつくり、ご家族から要望や意見を聞きだす機会を設けている。出された意見は連絡簿に記録して、職員全員で共有しながら話し合い、改善へ向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員が対応することの重要性を認識しており、離職が最小限になるように努力している。職員交代があった場合も、新しい職員が利用者や馴染むまで研修期間を設けており、慎重に段階を経ながら関わるようにして、利用者へのダメージを最小限に防ぐために配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の知識や習熟度、経験や立場に応じて計画を立て、研修を受講する機会を設けており、スキルアップのための支援・協力も行っている。また、研修委員会を組織しており、内部の勉強については担当者を決め、資料集めや講師を務めることにより、職員の育成と全体の資質向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・県・地区のグループホーム連絡協議会に加入し、事例発表や研修、公開講座等に参加している。代表者は、地区連絡協議会の会長として業界全体の人材育成とレベルアップを目指しており、事業所相互の見学会や事例発表会を提言し実行している。また、ファミリーレストランで地域の事業所職員同士の交流会を開くなど、意見交換を通して互いにサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学に来ていただき、ホームの見学や行事参加の機会を設けながら、他の利用者や職員と交流を図り徐々に馴染めるように支援している。見学に來れない場合は、職員が病院や自宅を繰り返し訪問している。また、利用開始後に帰宅願望が強い場合は、ご家族と話し合いながら自宅への外出や外泊を行うことで、安心感を持ってもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の下ごしらえや味付け、裁縫や方言、歌などを教えてもらう機会を多く設けている。生活の知恵を学んだり、アドバイスをもらうなどして、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	背景となる利用者の生活歴や生活習慣、および言動の観察により意向の把握に努めている。職員は利用者が使う方言を学び、それを使って話すことで、思いや希望を話しやすくするように工夫している。職員が気づいた点はカンファレンスで話し合い、情報を共有するように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者およびご家族の思いや希望を、時間をかけて念入りに聴き、言葉や態度からも気持ちを汲み取りながら、職員ミーティングを経て介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、モニタリングを実施するとともに、三ヶ月毎にご家族から要望を聴いている。そのほかにも、職員が日々の気づきをケースカンファレンスで話し合い、状態変化に応じた介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や往診の支援を行いながら、医療機関との連携を密に行っている。また、希望に応じて外出を支援したり、通夜や葬式にも参列するなど、擬似家族としての機能も果たしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援を行い、ご家族が付き添えない場合は職員が同行している。必要に応じて、バイタルサインや食事・水分摂取量などの状態記録を医師に伝え、受診結果はご家族へ報告している。日頃から、かかりつけ医への相談や報告をこまめに行いながら、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を説明し、重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族の意向を確認している。さらに、状態変化に伴い、その都度ご家族の意向を再確認しながら、その後の方針と具体的なケアの方法について関係者全員で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて研修を行うとともにマニュアルを作成し、職員への周知に努めている。記録物などの個人情報は、適切に取り扱われている。また、接遇委員会による研修を実施して接遇教育に力を入れており、日々のケアにおいては礼儀正しい態度や言葉遣いで接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、状態や希望に合わせて、利用者のペースで起床や就寝、食事などができるように配慮している。また、一日の個別スケジュールを決めており、利用者の意向に沿った支援が行われている。眠れない利用者に対しては夜食の提供や添い寝をするなど、その方らしい暮らしの支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で利用者と一緒に育て収穫した野菜や、近所の方からいただいた季節の食材をメニューに取り入れている。利用者は、下ごしらえや味見、盛り付け、後片付けなど、それぞれの力量に応じて職員と一緒にいる、和やかな雰囲気です。食卓を囲み食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があればいつでも入浴できるようになっており、馴染みの利用者同士で入ったり、職員と一緒に入るなど、入浴を楽しめるように支援している。その日の体調によっては、足浴や清拭を実施するなど、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴から、得意とする分野での活躍ができるように、料理や農作業、生け花や着付けなどの役割や楽しみごとの支援を行っている。また、地域の行事見学や参加を通して、気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買い物や好きなコースの散歩など、一人ひとりの意向や身体状況に合わせて日常的な外出支援を行っている。希望があれば、墓参りや知人の葬儀に職員が同行して参列するなど、意向に沿った外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の心理状態や動線を把握しており、外出の気配を察知した場合はさりげなく同行して見守っている。近隣住民にも協力の働きかけを行いながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年三回の消火・避難訓練を夜間想定を含めて行っている。消防・防災委員会を設置し、毎月コンセントの清掃を行うなど、防災意識の向上を図っている。また、利用者毎のADLを基にした個別の避難誘導方法を検討するなど、実際の場面を意識した姿勢は消防署からも高い評価を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し、職員間で情報共有している。献立は栄養士の関与を得て作成しており、献立・栄養会議も行うなど、栄養バランスに配慮した支援が行われている。水分摂取については、一日の水分量の目安を定め、状態によっては摂取量を詳細に記録しており、夜間の水分補給も行うなど十分に確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	サンデッキに椅子やテーブル、火鉢などが置かれ、お茶飲みや日向ぼっこ、シャボン玉などを楽しめるようになっている。窓からは自然豊かな田園風景を望むことができ、季節を身近に感じながら、居心地良く過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の必要物品案内で、馴染みの物の持込みを促しており、テレビや椅子、テーブルや鏡台、遺影、針箱など、自宅で使い慣れた物を持ち込んでいただいている。壁にはご家族の写真や好みの飾りをしつらえるなど、思い思いの居室空間がつくられている。また、居室内の手すりは、位置や長さなど、利用者の個別性を十分考慮して設置されている。		